

³³ 部屋のまん中に、うすいふとんが
いてあります。³⁵ ねているのは、女
子のお母さんでした。



くしてある

対象に変化を生ずるウゴキがおわったあと、その対象を主語にして、結果の状態を述語としてあらわしたものである。

これになる動詞は、対象に変化を生ずる他動詞である。また、意志的な動作をあらわす動詞にかぎる目に見えるようなかたちでの状態をあらわす。

・つくえの花びんには、花がさしてあつた。
放任の状態をあらわす。

・そのしことは、かれにまかせてあります。

・学級会は、子どもの自由になさせてある。

女の子の家に入ったおにたが、はりの上から見た部屋のような。部屋を見たときに、目に入ったのは、まん中にいてあるふとんだつた。しかも、それはうすいふとんだ。暖かい感じではない。また、ずつとしいてあつたのだらう。そして、そこに寝ている人は、女の子のお母さんだ。

まず目についたのは、ふとんだつた。いかにも、ずつとしいてあつたと思わせるようなうすいふとんだつた。それは、また、貧しさを思わせるものでもある。

の部分の分析 (直線・波線を引く)

「しいてあります」というのは、どういうことなんでしょう。次の例で考えてみよう。頭の中に、それぞれのうすを絵にして考えてごらん。

かびんに花をいけた。

かびんに、花がいけてある。

アは、花をいけたこと。

花をいけている人がいる。

準備のできた状態をあらわす。

・食糧は、あつちでもらいたまえ、話してあるから
ここでは、 の意味。

例文

ア かびんに、花がいけてある。

イ（先生が）かびんに花をいけた。

比較

ア くが ふとんを しきました。

イ ふとんが しいてありました。

ウ ふとんが しいてあります。

イは、ずっと花がいけてある。

・前にいけていて、そのままにしてある。

「く」してある「というのは、こんなふうに、何かをいじったり動かしたりして変わったようすが、そのままになっていることをあらわす。

Ｔでは、本文の場合は？

ア くが ふとんを しきました。

イ ふとんが しいてありました。

・アは、ふとんをしいている人がいます。

（Ｔ うん、誰がしいたのかは後で考えてみよう。）

・イは、ふとんが見えます。

・ずっとしいている。

Ｔ そうだね。ふとんがしいたままになっているんだ。

そのふとんがある。

Ｔ ところで、今まで出てきた「すぎをさらす」「になっ
ているよ。」

イ ふとんが しいてありました。

ウ ふとんが　しいてあります。

・おにたが見たようすです。

・はりの上から、おにたは見ているんです。

Ｔ そうだね。どこを見ていたかというと・・・。

・部屋。

Ｔ その部屋の・・・？

・まん中にふとんがしいてあつた。

Ｔ それが見えたんだね。

Ｔ そして、そのふとんはどんなふとんだった？

・うすいふとん。

・なんだか、冷たい、寒い感じがする。

・ずつとしたままになつているんじゃないかなあ。

・洗面器の時みたいに、貧乏な感じがする。

Ｔ うん。この家のことがわかつてくるふとんだね。

Ｔ ほかにわかることは？

女の子の

お母さんでした。

わているのは

(倒置文ではない)

比較

ねているのは、お母さんでした。

お母さんがねていました。

*この文もおにたの視点であるとするなら、この段階でお母さんでしたとわかるには無理があるようだ。

単なる、語り手の説明であるところからえるのがいのかもしれない。

波線になるのは、どれ？

・お母さんでした。

・女の子の、お母さんでした。

↑では、なにがお母さんだったの？

・ねているのは。

↑そつだね。ふつうに(だれが、どうした)いう文に

すると、これはどういう文になるのかなあ。

・女の子のお母さんがねていました。

↑比べて考えてみるよ。

ねているのは、お母さんでした。

お母さんがねていました。

↑ 中身は同じようだけど、ちがうよ。どっちがう？

・ は、お母さんのことを言っている。

・ は、誰がねているのかわからなくて、あとでわかったと言っている。

↑

↑ はじめはわからなかったんだ。

↑ 前の文と続けて読んでみよう。

↑ わかることない？

↑ だんだん、お母さんに近づいていっている。

部屋のまん中

6 うすいぶとん

6 ねている人

6 女の子のお母さん

おにたのこやどはっ..

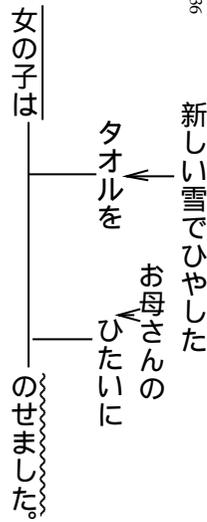
部屋の中のおうすをじっと見ている。

・ はりのかげにかくれて、部屋を見つめている。

T 見ているおにたのようすもつかんでくるね。

36 女の子は、新しい雪でひやしたタオルを、お母さんのひたいにのせました。 37すると、お母さんが、ねつでつるんだ目をうつすらと開けて言いました。
「おなかですいたでしょうっ?」

36



*ふつうに語順通り読めば、「新しい」は「雪」をかざって、「新雪」という意味合いをになう。(下の流れは、それを前提としている。)

が、「新しい」が「雪でひやしたタオル」全体にかかる
と読めないこともない。こうなると、新たにひやしたと
いうことになる。

ただ、規定語は、その後に読点でもつかないかぎりは、
近い単語(名詞部分)をかざるのが原則だろう。そつうい
う点でも、「新しい」は「雪」をかざっていると読めばい

女の子が外で雪をすくって洗面器に入れた意味がわか
る。お母さんは、目がうるむほど、また、外に出て雪
をすくってきたりする女の子の動きにも気がつかない
ほど、熱が出て寝ている。そんな状態なのに、女の子
の食事のことを気にするお母さんだ。

文の分析

T 女の子は、タオルをお母さんのひたいにのせました、
という文で、女の子のしたことは、「のせました」だ
けのようだけど、のせる前にしたこともわかる。それ
は？

・タオルを、新しい雪でひやした。

T そうだね。タオルをくわしくしているところだけど、
これは、女の子がしたことだ。

ここからわかることない？ふつうならどうするかも思
い浮かべながら考えてみて。

いのではないだろうか。

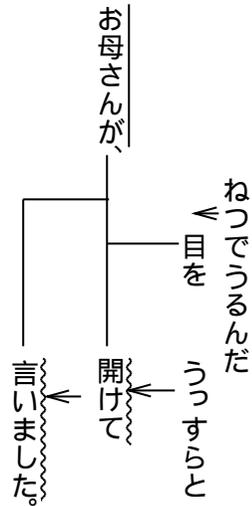
・タオルがあたたまつたから、ひやしている。
・うちだったら、冷蔵庫にアイスノンが入れてある。
・冷蔵庫なんかないんだ。
・氷の代わりに雪を使っている。
・新しい雪で冷やしたんだから、きれいな雪を選んで使っている。

T いいところに気がついた。新しい雪なんだね。
つまり、前の場面の外で女の子が雪をすくっていたのは、新しい雪、つもったばかりの雪をすくって入れたんだ。

ところで、雪でタオルを冷やすって、どうしたんだらうね。

（具体的には書いてないので、フリートーク。イメージをふくらませる。）

T そうやって冷やした雪を、お母さんのひたいにのせたんだね。



する。

前の文の内容が、あとの文が成立するための条件
 やきっかけであることをあらわす。

うるむ【潤む】

『五百』 湿りを帯びる。湿りを帯びたように
 なる。「目」(目)に涙がにじむ(「声」(泣
 いているような声になる)

つすむ

『副』「く薄く。」(と)化粧する

で格の用法

文の分析

「開けて」は述語か修飾語か。

↑ 前の文と同じで、波線以外に波線みたいところが
 あるよ。

・うるんだ。

↑ 「うるんだ」というのがあるね。何がうるんだのか、
 ちゃんと文に直すとどうなる？

・目が熱でうるんだ。

↑ どういうこと？まず、どんなようすが目に浮かぶ？

・目がぬれている。

・涙が出ているみたいになってる。

・涙ほどたくさんじゃないけど、ぬれている。

↑ 「うるむ」というのは、湿っていることなんだ。

で、「熱で」というのは？

・熱が出ているから。

・熱が出て、しんどいから涙が出る。

・熱がすぐく出てる時って、こんなふうになるよ。

↑ 何にしても、ずいぶん熱が出るんだなあというこ
 とがわかるね。それも、最近熱が出たんじゃなくて、
 ずっと熱が出ているような感じがする。

道具（具体名詞）

・ぼくは、ナイフで木を切った。

材料や原料や構成要素

・木で動物を作った。

よつす、すがた

・ぼくは、はだして砂浜を走った。

ウゴキや状態が成り立つ場所

・ぼくたちは、図工室で工作をした。

原因（できごと名詞）

・台風で木が倒れた。

本文の場合は、 の用法。「熱で」というのは、できごと名詞であり、「熱が出た（出ている）ので」とほとんど同意ととらえてもいい。

T 女の子は、その間、どうしていたんだろう？

（フリートーク。かいがいしく看病していることがイメージ化できていればいいだろう。）

T ちよつと元に戻るよ。お母さんは、熱が出ていて、目がうるんでるんだ。その目を？

・うつつらと開けた。

T うつつらというのは？

・大きく開けているんじゃないかと、ちよつと開けている。
・しんどいから、目をちゃんと開けられないんだ。

T お母さんのしんどさまでわかるね。そして、

・言いました。

T だね。その中身は、次だ。

次へいく前に、一つ残っている単語がある。

・すると、

T 「すると」というのは、前のことをきっかけに次のことが起きていることをあらわすつなぎことばだ。

ここでは、なにをきっかけにして、どうしたということ？

・女の子が、冷たいタオルをお母さんのひたいにのせたのがきっかけ。

・それで、お母さんは目を開けた。

・眠っていたのが、目を覚ましたんじゃないかな？

「(おまえ)——おなかがすいたでしよう?」

比較

おなかがすいたでしよう?

おなかがすいた?

T つまり、お母さんはここまででは?

・眠っていた。

・病気がひどいんだ。

T そうみたいだね。それが、女の子が雪でひやしたタオルをひたいにのせられて、目を覚ましたんだろ?ね。そして言ったことはが・・・?

・おなかがすいたでしよう?

T お母さんのどういう気持ちかわかる?

・女の子がおなかがすいているんじゃないのと、心配している。

・病気で寝ているから、女の子にこほんも作ってやれていない。

・自分も熱が出てしんどいけど、子どものことを心配している。

T そうだね。自分のことを言っているんじゃないくて、女の子の心配をしているんだね。

ここで、次の二つを比べてごらん。なにがわかる?

おなかがすいたでしよう?

おなかがすいた?

・ は「おなかがすいたか」とたずねているから、女の子がおなかがすいているかどうかわかっていない。

・ は、たずねているんだけど、女の子がおなかがすいているとわかっている。

↑ ということは？

・ お母さんは、長い間、ごはんを作ることができてないから、女の子にごはんを食べさせてやれていない。だから、女の子がおなかがすいているというのがわかってる。

↑ きっと、そうなんだろうね。

それは、次を読めば、もっとはつきりする。

↑ ここまでで、ほかにわかることは？

38 女の子は、はっとしたようにくちびるをかみました。39 でも、けんめいに顔を横にふりました。
おそして、

「いいえ、すいてないわ。」
と答えました。

40 「あたし、さつき、食べたの。あのねえ
と話しました。」

41 「知らない男の子が、もってきてくれたの。あつたかい赤ごはんと、うぐいす豆よ。今日は節分
でしょう。だから、ごちそうがあまったって。」

38

はっとしたように

女の子は——くちびるをかみました。

かなりの熱で、つらい思いをしている中で、娘を心配する母。その母を心配させまいと、おなががすいているのに、「食べた」とうそをつく娘。しかし、そのうそはあまりにも苦しいうそだ。

文の分析

(「くちびるをかむ」については、考えの余地あり)

T 「はっとする」というのは、びびりつつ気持ち悪く、びびり
いうときに使う。

・びびりしたとき。

・急に何かあったとき。

・ぼんやりしているとき、急に呼ばれたりしたときに使
う。

はっと

『副』 急に思い当たるさま。「 気が付く」。思
いがけない事で驚くさま。「落ちそつになつて
す
る」

くちびる【唇】

口のふちの、薄い皮でおおわれた、やわらかい部
分。

「をかむ」(残念がる)

「を奪う」(相手の意志に反してキスする。)
「を盗む」とも言つ)

「滅びて齒寒し」(互いに助け合うものが、一方
が滅びれば、他の一方もあぶなくなるこのたと
え)

*本文での「唇をかむ」は、慣用句として使われ
ているのではなく、まさにウゴキそのものとし
ての「唇をかむ」だと思える。つらいときやしや
べってはいけないときに、小さな子がする動作。
子どもたちに動作化させると、容易に出てくるの
ではないだろうか。

T ここで、はっとしたように、というのは、急なこと
で、びっくりしたようにということなのかな。では、
なににはっとしたんだろう。

・お母さんに、「おなかがすいたでしょう?」といわれ
たこと。

T はっとするようなことじゃないんじゃないの。

・女の子は、おなかがすいていたから・・・。

T 次も読んで、考えてみよう。はっとしたようにどう
したのかという?

・くちびるをかみました。

T くちびるをかむ、というのはどうすること?

・がまんした。

・じっとだまつた。

T やってみてごらん。

・(動作化) 「通り出る?」

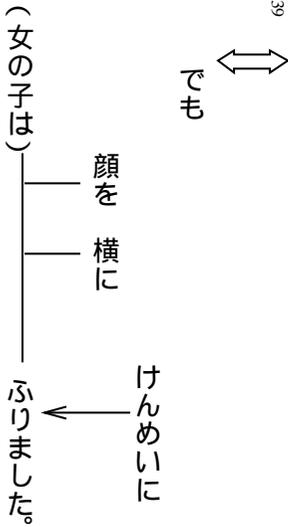
T どういうときに、そんなふうにする?

・何か悪いことをしたとき。

・じっと黙っているとき。

T そうだねえ。では、ここで女の子がくちびるをかん
だというのは、どういふことなんだろう? はっとした
ように、というのも一緒に考えて。

・ほんとは、おなかがすいているんだけど、それをいっ



ちやいけないと思っっている。

・ ちょうどおなががすいていたときに言われたので、びっくりしたんだ。

・ 女の子は、「おなががすいた」と言ったら、お母さんを心配させるから、言っちゃだめだと、じつとがまんしてる。

T そんな感じだね。女の子は、本当はおなががすいているんだけど、お母さんには言わないんだ。それだけではないみたいだ。
次を読んでみよう。

文の分析

T どんなふうにしたの？ やってみて。

・ (動作化)

T やっているようすは？

・ けんめいに。

・ いっしょうけんめいなんです。

T かおは？

・ ぎゅっとくちびるをかんだまま。

T 女の子のどういう気持ちかわかる？

けんめい【懸命】

『ダナノ』 ある限りの力を出し尽くして、がんばること。「の努力」

*教科書では、「けん命」と表記して、「命」を新出漢字として提出しているが、これはあまりに乱暴な提出のしかただと言わざるをえない。ひらがな表記でじゅうぶんだし、その方がわかりやすいだろう。

・ いっしょうけんめい、おなかがすいていないと伝えようとしている。

・ お母さんに心配させないようにしようとしている。

Ｔ そうだね。

とここで、この文は、「でも」でつながっているね。「でも」っていうつながりことは、どいうときに使われたかというとき？

・ くいちがいのとき。

Ｔ くいちがうときなんだね。では、ここではなにがくいちがうんだろう。前の文でも、女の子はくちびるをかんんでいるんだよ。

・ 前の文は、女の子はおなかがすいているんだけど、がまんしていること。ここでは、おなかがすいていない、と言ってる。

Ｔ おなかがすいているというのと、すいていないというのがくいちがうんだね。

次を読むと、もっとはっきりするよ。

そして、

「いいえ、すいてないわ。」と

(女の子は)—— 答えました。

「
あたし——食べたの。」
さつき

あのねえ……、あのねえ……、

お母さんが——ねむっている時。」と

(女の子は)——話しだしました。

文の分析

T 「そして」でつながっているから、前の文の続きだ。けんめいに首を横にふったあと、女の子はどうしたかというところ……?

・「いいえ、すいてないわ。」と答えた。

T お母さんがたずねてから、けっこう間があいているね。すぐには、「すいていない」と答えられなかった。それだけ、女の子はおなががすいていたということ。急に言われたので、びっくりして、いろいろ考えた。

T でも、女の子の気持ちの中で、はっきりしていることは？

・お母さんに心配をかけてはいけないと思っている。
・はやくよくなってほしいと思っている。

文の分析

(「さつき」の扱い。「お母さんが眠っているとき」と言い直しているとすれば、状況語だ。会話文で文図としてどう表現するか、考えなければ……。

ただ、「お母さんが眠っているとき」は、直接には、次の会話文の時をあらわすと考える方が自然かもしれない。)

さつき

(その日のうちで)今より少し前。さきほど。

「先(さき)」の促音化。

T そして、「いいえ、すいてないわ。」に続けていった
ことばが・・・?

・「あたし、さつき、たべたの。」

T そうだね。「すいてない」だけじゃなくて、「たべた」と
言っているんだ。それも、いつたべたかという?

・さつき

T さつきというのは?

・ちよつと前。

T ほんのちよつと前に食べたっていつているんだね。

ところで、その言い方だけ・・・。読点に気をつけて
言っごらん。どんなふうと言っただろう?

・それぞれ読む。

T 女の子の気持ち伝わってこない?

・考えながら言っている。

・どう言おうか考えていつている。

・お母さんに心配かけないようにするには、どう言っ
たらいいか考えている。

T そうだね。だから、つまりつまり言っているんだ。

それは、そのあとの言い方からもわかるね。

・あのねえ……、あのねえ……、

T この言い方からわかるのは、?

・いっしょうけんめい考えている。

・どう言おうかさがしている。

・困っている。

T ふつう、お母さんは、子どもがさっきごはんを食べた、っていったら、どう言う？お母さんは、ごはんの用意はしていないんだよ。

・さっきっていつ？ってたずねる。

・そのごはんは、どうしたの？

・だれがつくったの？

T ふつうなら、そんなことをたずねるだろうね。この女の子も、それがわかっていたのかな？

・お母さんがたずねる前に、言わなきゃと思ったんだ。

・お母さんを安心させたいと思っている。

T やはり、お母さんのことを一番に思っているみたいだね。で、あのねえ……、あのねえ……、と言いながら考えたのが……？

・お母さんが眠っているときに食べた。

・さっきって言うのは、お母さんが眠っているときだとお母さんに尋ねられる前に言った。

T そうだね。

そして、「と話しました。」と書いてあるね。「話しました」ではなくて、「話しました」となっている。

知らない



男の子が、——もってきてくれたの。

あつたかい



赤ごはん、うぐいす豆よ。

今日は——節分でしょう。

だから、

「ごちそうが——あまつたつて。」

・話し始めた。

・続きがある。

・これだけなら、まだ、お母さんを安心させられないから、続けていった。

T では、次を読んでみましょう。女の子は、なんて言っただろう。

T 続けていったのが？

・知らない男の子が持ってきてくれたの。

・知らない男の子が、ごはんを持ってきてくれた。

T うん。知らない男の子だつて。

・そんなことあるはずない。

T そうだね。だから、また続けて言わなきゃいけない。と、その前に言っていることは？

・あつたかい赤ごはんとうぐいす豆よ。

うぐいす豆

グリーンピースとうぐいす豆はどう違うのか。

A 「グリーンピース」は、実えんどうの未熟な種子を野菜として利用するものです。一方、完熟後、収穫、乾燥させた青えんどう豆の甘煮のことを「うぐいす豆」と呼びます。

* 女の子のしゃべり方にも注目

できるだけ明るく元気

これがこのあとの対比を深めるだろう。

・ 男の子が持ってきてくれたのは、あつたかい赤ごはんとうぐいす豆だった。

(必要があれば、赤ごはんとうぐいす豆の説明)

T これって、女の子の気持ちがあらわれてない？

・ 女の子は、赤ごはんとうぐいす豆が食べたんだ。

・ それも、あつたかいのが・・・。

・ こんないいものを食べたよと言ったら、お母さんが安心すると思った。

・ やっぱり、お母さんを安心させようとしている。

T そんな気持ちもありそうだ。で、次は？

・ 今日節分でしょう。だから、ごちそうがあまったって。

・ 節分の日には、ごちそうをするの。

T みんなの家では、どうかなあ。節分の日にごちそうする？このお話のところでは、節分の日にはごちそうをするみたいだ。

とところで、そのごちそうというのが・・・。

・ あつたかい赤ごはんとうぐいす豆。

T みんなにとってはごちそうじゃないかもしれないけど、昔は、赤飯とか甘い豆とかはめったにないごちそうだったんだよ。

T そんなごちそうをどうしてもってきてくれたかとい

うと？

・ あまったから。

Ｔ やはり、女の子の気持ちがあるみたいだよ。

・ 今日は、節分だから、よその家ではごちそうをしているんだらうなあ。

・ あまるくらいたくさんあるんだらうなあ。

・ あまるくらいあるんだから、持ってきてくれたと言っても、変じゃない。そうすれば、お母さんも安心する。

Ｔ うん。女の子の気持ちいろいろあるようだね。でも、その中心は、赤ごはんが食べたいとかじゃなくて？

・ お母さんを心配させないようにしている。

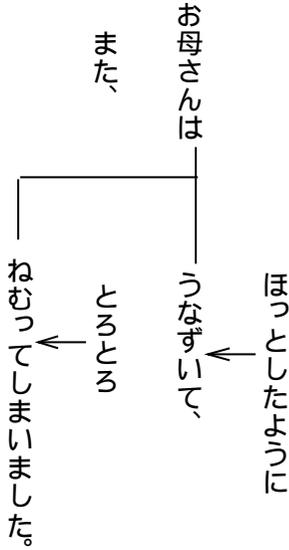
・ お母さんに早くよくなつてほしいと思っている。

Ｔ そうだらうね。

ほかにわかることがある人はいませんか？

とお母さんは、ほっとしたようにうなずいて、また、ところねむってしまいました。とする
と、女の子が、フーツと長いためいきをつきました。

43



ほっと

『副』ため息をつくさま。「息をつく。」や
っと安心するさま。「間にあってした」「胸
をなでおろした」

お母さんは、女の子のうそがわかっているのかわか
っていないのか、どちらにしても、ほっとしたように
なってねむり始めた。お母さんに心配させないですん
で、女の子は、ほっとした。自分のついたうそに気づ
かれなくて、ほっとした。それまでの緊張が、ここで
一気にゆるみ、安心して出たのが長いため息だろう。

文の分析

↑ お母さんのことが二つあるよ。

↑ ほっとしたようにうなずいた、というところでわか
ることは？

・ おかあさんは、ほっとした。

・ よかったね、という気持ち。

・ 女の子の言ったことがわかった。

↑ ほっとしたように、となっているよ。

・ ほっとしたっていうんじゃなくて、ほっとしたように
見えた。

・ 安心したように見えた。

うなずく「うなづく」】×頷く】

『五自』 わかった、引き受けた、賛成するの
意を示すため、首をたてに振る。

とろとろ

『副』 ゆるい粘体状になっているさま。」

とろける」「 の飴(あめ) 火の勢いが弱

いさま。」(と)燃える火」「(と)煮る」

浅く眠るさま。」つい(と)した「目

(と)してくる

↕ ぐっすり

してしまっ

主体や対象の変化が終了することをあらわす。

・日が暮れてしまわないうちに、

話の展開の中で、場面を転換させるような変化
や動作が成立することをあらわす。

・あのばあさんも、とうとう死んでしまった。

*消滅・終了をあらわしていることが多い。

予期しなかったこと、期待しなかったことがお

こることをあらわす。

・かれは、思わず笑い出していました。

↑ やってみてごらん。

・(動作化)

↑ そして、・・・??

・とろとろねむってしまいました。

↑ 次の二つを比べて考えて。

とろとろねむってしまいました。

ぐっすりねむってしまいました。

・は、いびきをかくらいねむってる。

・は、ぐっすりという感じじゃなくて、浅い。

・は、しっかり眠れている感じじゃない。

・お母さんは熱があるから、ぐっすりは眠れないんだと
思う。

↑ では、次は、これを比べてみて。

とろとろねむってしまいました。

とろとろねむりました。

・はねむったことをいつてるだけなんだけど、は、

完全にねむった感じがする。

・今さっきは、ほんやりとでも起きてたけど、今は、も

う、しゃべったりしない。

↑ そうだね。「しまっ」がつくと、意味がつけ加わっ

てくる。次で考えてみて。

本文の場合は、

どっちの意味づけとして説明するかは、
ちよつとむずかしいが……。

ア 宿題をしてしまつてから、ゲームしなさい。

イ 宿題をしてないのに、ゲームをしてしまつた。

・アは、全部宿題をしている。

・宿題が完全におわつている。

・イは、してはいけないのに、ゲームをした。

・やつちやいけないことをした。

↑「してしまつ」は、だいたいこの二つの意味があるんだ。一つは、アの、何かが終了する、完全に終わるという意味。もう一つは、イ期待しなかつたこと、予想しなかつたことが起きたという意味。これは、どちらかというときよくないことに使われるんだ。

さて、この、お母さんはとるところねむつてしまいました、の場合はどつちかというところ……？

・アの方だと思つ。

↑ そうだね。よくないことじゃないものね。女の子は、お母さんにどうしてほしいのかというと……？

・いろいろ心配しないで、ゆつくり眠つてほしい。

・しつかり休んでほしい。

↑ だから、眠つてしまふのはいいことだ。イではないね。アの終わるといふ意味とはちよつとちがうけど、

すると、

長い

フーツと

女の子が、——ためいきをつきました。

すると

前の文の内容が、あとの文が成立するための条件やきっかけであることをあらわす。

完全にとという意味もあるから、……。このころで、「また」というのが残った。これでわかるのは？

・ これまでも眠っていた。

・ 女の子が雪で冷やしたタオルをひたいにのせるまでは眠っていた。それで、また……。

Ｔ そうだね。「また」というのは、前にもあったことがくりかえしある時にも使うからね。

さて、お母さんのようすを見て、女の子はどうしたか？それが次だ。

文の分析

Ｔ 「すると」でつながってるね。これは、前の文がこの文のきっかけになっているということなんだよ。お母さんが眠ってしまったのをきっかけにして、女の子はどうしたかというところ……？

・ ためいきをつきました。

・ フーツと長いため息でした。

Ｔ そうだね。長いためいきをついたんだ。みんなやっ
てごらん。

・ フーツ

Ｔ どんな感じがする？女の子の気持ちも考えてみて。

ためいき【×溜(め)息】

心配したり失望したり大いに感心したりする時、
思わず出る大きな息。」をつく

・ほっとした。

・よかったあと思った。

Ｔ お母さんが眠ってしまつて、大きなためいきをついたんだ。お母さんが起きていたときの女の子はどうだったかというと・・・？

・うそをついていた。

・元気で明るくしゃべっていた。

・笑顔だったかもしれない。

Ｔ お母さんが起きていたときには、元気そうにしていたんだ。それが、眠ってしまつて・・・？

・気が抜けたみたいになつた。

・お母さんに気がつかれなくてよかつたと、ほっとしたんだ。

Ｔ お母さんに気をつかわせないようにしようと一生懸命な女の子だね。

Ｔ それでは、ここまでで、ほかにわかることはありませんか？